

文部科学大臣賞

コロナで変化した親切

山形県 第五中学校

1年 金成 千彩

新型コロナウイルス感染症が流行し、感染予防のためには、人と人との距離を保つことが大切だと言われるようになりました。私は、ソーシャルディスタンスを意識するあまり、今まで当たり前のように行動してきたことを、ためらってしまうことが多くなりました。また、親切だと思ってしたことが、相手にとって迷惑だったのではないかと思うできごともありました。

図書館に行ったときです。ベビーカーに乗った赤ちゃんが、おもちゃを落としてしまったのを見かけました。私がそれを拾って渡したところ、赤ちゃんのお母さんは、驚いた顔でおもちゃをさっと受け取り、立ち去っていきました。

自分では親切のつもりでおもちゃを拾ったのですが、そのお母さんは、赤ちゃんが触る物だから、他人に触ってほしくなかったのかもしれないかもしれません。それどころか、あまり近づかないでほしいと思ったのかもしれないかもしれません。

私は、触らずに声をかけて教えるだけにすればよかったのかな、と複雑な気持ちでした。何か行動を起こすときは、相手がどう感じるか、感染予防のことも考えなければならないなんて、悲しいことです。

また、私は毎年夏休みになると、祖父の家に泊まりにいき、畑の野菜の収穫を手伝うことにしています。しかし、今年は泊まりに行くのをやめました。万が一、自分が無症状で感染していたら、移してしまうかもしれないし、高齢者は重症化しやすいと言われているからです。しかし、暑い中、一人で野菜を収穫するのは大変だろうと思います。畑仕事を手伝うことはできませんでしたが、感染予防のために泊まりにいかなかったのも、祖父に対する思いやりです。

このときも気持ちは複雑でしたが、祖父に会いたいという気持ちを抑え、祖父の命を考えた行動ができたこと、無理やり納得することにしました。

それにしても、新しい生活様式によって、人との関わり方が難しくなり、なんだか寂しい気がします。そんな中で、親切の形も変わらざるを得ないのでしょうか。

他の人の荷物を持ってあげたり、落とし物を拾ってあげたりすることは、迷惑になってしまうかもしれません。しかし、あいさつをして地域を明るくしたり、校内のゴミを拾ったりすることは、こんな状況でも、また一人であっても、中学生の私にもできることだと思います。

コロナウイルスに感染しないように、日々の生活から手洗い・うがいの徹底、マスクを着用することを心がけ、周りの人にも移さないようにすることも、思いやりの一つだと思います。自分を守ることばかり考えて、親切や思いやりの気持ちを失ってはならないと思います。

大変なときだからこそ、感謝の気持ちを忘れず、今できることを考えて生活していきたいと思いません。